

資源管理に必要な情報の提供事業

定置網漁獲統計調査

久野正博

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贅・方座・錦・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の15漁場を対象に平成20(2008)定置年度(平成20(2008)年10月～平成21(2009)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成20定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成20(2008)定置年度の総漁獲量は5,373トンで前年度比93.4%であった。魚種別ではブリ(6kg以上の銘柄)が878トンで全魚種の16.3%を占めた。次いでマアジが826トン、イワシ類(分類されていない分)582トン、カタクチイワシ450トン、ワラサ(2～6kgの銘柄)374トン、サバ類357トン、イサキ212トン、マルソウダ207トン、スルメイカ192トン、シイラ175トン、イナダ(0.5～2kgの銘柄)147トン、ウルメイワシ102トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、カタクチイワシ(前年度比8.7倍)、マルアジ(同4.2倍)、イワシ類(同3.1倍)、ブリ(同2.2倍)、メジナ(同1.9倍)、スズキ(同1.6倍)、サワラ(同1.6倍)、マルソウダ(同1.5倍)、サバ類(同1.5倍)、マダイ(同1.4倍)、カンパチ(同1.4倍)、ヒラマサ(同1.3倍)、その他アジ類(同1.3倍)、マイワシ(同1.1倍)、ヒラメ(同1.1倍)、スルメイカ(同1.1倍)、ワラサ(同1.04倍)、フグ類(同1.02倍)であった。逆に減少した魚種は、マアジ(前年度比34%)、カワハギ(同37%)、ウルメイワシ(同49%)、ヒラソウダ(同53%)、カマス(同56%)、アオリイカ(同62%)、トビウオ(同63%)、ムツ(同71%)、タチウオ(同75%)、イナダ(同80%)、ウスバハギ(同84%)、シイラ(同89%)、イサキ(同90%)、インダイ(同95%)であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は119,117尾(前年度比2.3倍)で、最近30年の中では12万尾を越えた平成

表1. 全漁場合計漁獲量

平成20(2008)年10月～平成21(2009)年9月

順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	ブリ	877,836	16.337
2	マアジ	826,066	15.374
3	イワシ類	582,253	10.836
4	カタクチイワシ	449,963	8.374
5	ワラサ	374,423	6.968
6	サバ	357,247	6.649
7	イサキ	212,404	3.953
8	マルソウダ	207,116	3.855
9	スルメイカ	191,891	3.571
10	シイラ	174,951	3.256
11	イナダ	146,683	2.730
12	ウルメイワシ	101,835	1.895
13	カマス	64,772	1.205
14	マイワシ	60,014	1.117
15	マダイ	52,792	0.982
16	マルアジ	49,504	0.921
17	アオリイカ	46,784	0.871
18	ヒラソウダ	40,866	0.761
19	ウスバハギ	39,766	0.740
20	カンパチ	35,651	0.663
21	その他イカ類	33,699	0.627
22	インダイ	29,834	0.555
23	スズキ	29,364	0.546
24	その他アジ類	29,152	0.543
25	メジナ	23,580	0.439
26	トビウオ	20,300	0.378
27	サワラ	16,374	0.305
28	フグ類	15,896	0.296
29	タチウオ	15,875	0.295
30	ヒラメ	15,224	0.283
31	カワハギ	12,842	0.239
32	ヒラマサ	12,299	0.229
33	ムツ	11,620	0.216
34	ヤリイカ	9,613	0.179
35	ボラ	7,698	0.143
36	マグロ類	6,327	0.118
37	ウマヅラハギ	5,557	0.103
38	ヨコワ	4,986	0.093
39	カジキ類	1,179	0.022
40	ハガツオ	712	0.013
41	シマアジ	89	0.002
42	その他雑魚	178,154	3.316
合計		5,373,187	100.000

16 (2004) 定置年度および平成 15 (2003) 定置年度に次ぐ 3 番目の好漁であった。漁場別では錦の 24,640 尾が最高で、次いで阿田和 1 号の 23,329 尾で、他に片田と島勝でも 1 万尾を越えた。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられ、4 月だけで全体の 48%、3 月～4 月では全体の 90%、2 月～5 月では全体の 99%が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は 4 月 13 日の 11,058 尾、次いで翌 4 月 14 日の 6,806 尾、3 月 18 日の 6,696 尾、4 月 12 日の 6,188 尾、4 月 2 日の 5,866 尾、3 月 23 日の 5,816 尾、3 月 15 日の 5,728 尾であった。1 漁場における 1 日の最高漁獲尾数は阿田和 1 号の 4,395 尾 (3 月 31 日)、次いで同じく阿田和 1 号の 3,611 尾 (4 月 1 日)、片田の 3,160 尾 (4 月 13 日)、同じく片田の 3,105 尾 (4 月 12 日)、錦の 2,915 尾 (4 月 14 日) であった。

ワラサ (2～6 kg未満) の全漁獲尾数は 87,380 尾 (前年度比 88.7%) で、過去最高を記録した前年度を大きく下回り、ここ 10 年の平均値より約 2 万尾も少なかった。ワラサの目立った入網は 3 月～4 月にみられ、4 月に全体の 51%、3 月～4 月で全体の 73%が漁獲された。例年まとまった入網がみられる 11 月～12 月は低調であった。また、例年まとまった入網のみられる志摩半島周辺の漁場で不漁が顕著であった。全漁場合計の最高尾数は 4 月 9 日の 6,284 尾、次いで 4 月 15 日の 5,588 尾、3 月 23 日の 5,557 尾、4 月 8 日の 5,534 尾、4 月 12 日の 4,076 尾であった。1 漁場における 1 日の最高尾数は梶賀の 6,037 尾 (4 月 9 日)、同じく梶賀の 5,110 尾 (4 月 8 日)、梶賀の 4,088 尾 (4 月 15 日)、梶賀の 3,026 尾 (4 月 12 日) であった。梶賀では 4 月 5 日から 15 日までに 24,083 尾もの集中漁獲があった。梶賀以外の漁場では、阿田和 1

号の 2,800 尾 (3 月 23 日) が最高であった。

イナダ (0.5～2 kg) の全漁獲尾数は 129,661 尾 (前年度比 48%)、当歳魚が主体となる 8 月と 9 月を入れない集計期間では 92,711 尾 (前年度比 1.26 倍) で、過去 10 年では 4 番目の漁獲尾数であった。平成 20(2008)年級群のまとまった入網は 2 月～4 月に見られ、秋季の漁獲は低調であった。イナダは志摩半島周辺の片田と和具に偏って入網し、片田では 3 月 8 日から 15 日に合計 23,490 尾の集中漁獲があった。また、和具では 3 月 29 日から 4 月 3 日に合計 10,888 尾の入網があった。

平成 21(2009)年級群 (当歳魚) は、前年のような極端な入網は見られず、8 月は前年の 6.8%、9 月は 51.6%の漁獲尾数であった。贄では 9 月中旬に約 1 万尾、島勝では 8 月下旬～9 月中旬に約 2 万尾の漁獲があった。

ブリ以外の魚種では、マアジの 826 トンが最も多かった。マアジは記録的な豊漁であった前年と比べると 34%で低調な漁であったが、平成元 (1989) 年度以降の平均値は上回った。カタクチイワシは魚種分離されている分だけで 450 トンに達し、不漁の前年に比べて 8.7 倍で、平成 5(1993)年度に次ぐ好漁であった。

また、スズキとヒラメが、昭和 46 (1971) 定置年度以降で最高漁獲量をそれぞれ更新した。イサキとカンパチが昭和 46(1971)定置年度以降で 2 位の漁獲量であった。一方、カワハギは平成元 (1989) 年度以降で 2 番目に少ない漁獲量であった。

関連報文

三重県 (2010) : 平成 20 定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計.